

令和3年度 兵庫県立伊川谷高等学校 学校評価

教育方針	校訓「自主 協同」のもと、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成するとともに、明るく活気に満ちた校風と地域に愛される学校づくりをめざす。
教育目標	「命」と「人権」を大切に、夢に挑戦する生徒を育てる。
重点目標	①基礎・基本の定着を図り、生徒の主体性・創造性を育む教育を推進する。また、生徒に自己有用感とともに社会人として必要とされる基礎力、コミュニケーション能力を育み、社会的責任を果たせる生徒を育成する。 ②家庭・地域との連携を密にし、地域に愛される学校づくりを推進する。 ③教職員のコミュニケーションを密にし、「チーム伊川谷」により諸課題を積極的に解決する。

領域	標語	分掌	重点目標	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	R2評価	R3評価	改善方策		
総務・生徒指導・保健・進路	魅力発見！	総務		評価の観点	開かれた学校づくり	中学生や地域住民に本校の教育活動をPRする。	1	オープンハイスクールや学校説明会を通して、中学生や保護者に本校をPRする。	3.3	3.7	オープンハイスクールや学校説明会がより効果的なPRの場となるように、さらに改善をしていく。	
					防災教育の充実	生徒の防災意識を高める。	2	新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、避難訓練やシェイクアウト訓練を実施し、防災意識を高める。	3.1	3.1	生徒の防災意識を高めるため講演会やLHRなどを実施しながら、今後も継続して指導していく。	
					校内組織の円滑な運営	各部、学年、委員会の流れを把握し、学校組織としての効率性を高める。	3	学校組織の現状を把握し、断続的な調整役となる。	3.1	3.4	各部・学年との連携をさらに深め、より効果的な学校運営を行う。	
					読書習慣の確立	図書館の有効利用を考え、本に親しむ習慣を確立させる。	4	新着図書案内の掲示などを行い、書物への興味を持たせる。	3.6	3.5	今後も継続して指導を行う。	
	未然防止・早期発見・早期対応	生徒指導・保健			評価の観点	基本的な生活習慣の確立	担任や、学年の先生とのコミュニケーションを大切に。挨拶運動や遅刻指導などを通して、生徒達の規則正しい生活習慣の確立を目指す。	5	教務部と連携し、教職員の共通理解のもと、チャイムが鳴ると同時に授業に入る指導体制を全学年で実施する。また、日々の遅刻に関しては、行事日などを重点的に様々な場面において、余裕のある行動を取らせる。反省文などを通して、振り返りさせ、規則正しい生活習慣の確立を意識させる。	3.1	3.3	授業へ入るための準備や、授業での集中力の持続などへつながる行動を自覚させる。「よりよい行動とは何か」を自ら考える力を養わせる。日々の生活において自分の考え方が遅刻という結果として表れている場合は、改める点を確実に考えさせて、自ら行動し、約束を守るという結果に反映させていくように促す必要がある。
						規範意識の醸成	校則をきちんと理解して守らせる。頭髪・服装指導や交通安全指導などを通して、規範意識を高める。	6	各学年・各部の教職員の協力を得て、毎朝、生徒昇降口付近のあいさつ運動を利用して、服装指導や交通安全指導を実施する。	3.2	3.4	近隣地域からの苦情が減っていき、褒められるケースが増えるように、様々な機会を通して、今後も粘り強く、継続して指導していく。
						安心・安全な学校づくり	さまざまな機会を通じて、他者への敬愛の心を育み、自分の行動や言動の影響(SNSも含む)を考え、いじめのない学校を目指す。	7	いじめまたはいじめに準ずる行為が発生した場合、「いじめ対応チーム」が中心となって、職員が連携し、迅速かつ効果的に対応する。	3.3	3.4	いじめのない学校はないという前提で、今後もいじめを許さない学校を目指す。自分を大切に、他人に対しても同じ配慮を忘れない。自分の行動や言葉使い、SNSが与える影響を考慮することができる人格の育成に努める。
						生徒の成長を目指す支援	生徒との相談を通して心のケアを行い、生徒の内的な成長を支援する。	8	保健室での相談内容を担任・学年に伝え、個々の生徒の指導に活かせるようサポートする。必要に応じて、キャンパスカウンセラーとの教育相談とも連携する。	3.6	3.7	保健室と学年・担任、キャンパスカウンセラーとの連絡を密にし、必要な情報を共有し個々の生徒に有効な指導が行えるようにする。
						保健・安全	正しい生活習慣を身につけ、安全で健康的な生活が保持・増進できるように生徒を支援する。	9	学校医や家庭との連携を密にしながら生徒の健康保持・増進に留意する。個々の症状に応じた応急処置や保健指導・助言を行う。感染症について注意喚起し、集団感染の予防に努める。	3.5	3.6	職員・生徒に対する熱中症予防講習会や救急法講習会をはじめとする保健関係の講習会を実施するとともに、毎月発行している保健だよりにおいてその季節・時期に応じた情報を提供し、生徒・保護者に健康に関する注意喚起を行う。
						学校環境衛生	安全で健康的な学校生活が送れるように、学習環境の保全・管理を行う。	10	学校環境衛生検査を行い、必要に応じて迅速な改善を要請する。	3.4	3.4	学校医・学校薬剤師と連携を密にし、職員の協力を得て学習の場の良好な環境づくりを推進する。
夢にチャレンジ	進路指導			評価の観点	進路希望の実現	生徒一人ひとりの自己実現を目指した進路希望の実現をはかる。	11	オープンキャンパスなどの情報誌や、入試に関する冊子等を、学年に配布したり、進路室前に揃えたりして提供する。	3.0	3.4	今後もできるだけ精選し、提供するよう努める。	
					進路選択の支援	生徒が主体的に進路を選択・決定できるよう支援する。	12	就職・公務員・医療看護系など少数の希望生徒に対して、必要に応じた指導を行う。	3.3	3.6	今後も、指導内容の見直し・精選をはかりながら、継続して行っていく。	
					進路情報の提供	各部・委員会と連携しながら、有用な進路情報を生徒・教職員に提供する。	13	3年間を見通した進路指導を行えるよう、部・学年間で情報交換を行い、研修会を開催する。	3.1	3.2	研修会を各学年1回、拡大部会を各学期に1回行っているが、学年の意見も聞きながら、内容の精選・充実を図ってきたい。	
							14	学年との連携を密にし、とくに第3学年の学年会議に必要に応じて出席する。	3.3	3.4	今後も、継続して行っていく。	
							15	必要な資料および情報を提供し、進路関係資料の有効活用をはかる。また、進路通信を随時発行して情報を発信していく。	3.3	3.5	今後も、業務の見直し・精選をはかりながら、継続して行っていく。	
教務・情報	新たな前進			評価の観点	基礎基本、個に応じた指導	目指す学校像に応じた教育課程を検討する。また、生徒の現状に応じた授業展開(少人数授業、チームティーチング)の工夫を行う。	16	生徒の興味・関心、進路に応じた教育課程を編成し、本校生徒に履修させるべき科目を設定する。	3.2	3.2	来年度からは新カリキュラムがスタートすることもあり、新カリキュラムに向けた教育課程の検討を進めていく。	
					学力向上	シラバスを作成することで、各教科の目標や評価基準を明確にし、授業を年中公開する。また、各教科における学力向上に向けた取り組みについて共通理解を図る。	17	生徒の力に応じた基礎学力をつけるために少人数授業、習熟度別授業、チームティーチングを実施する。	2.9	3.3	少人数授業、習熟度別授業、チームティーチングの授業を整理し、より効果的な講座編成を目指す。	
							18	教室環境整備、授業規律の確立の一助として、年中授業を公開するとともに、年間2回「伊川谷学び合い週間」を実施する。また、研究授業、研究会を実施する。	3.2	3.3	教師が互いに授業を見て意見交換することで、より質の高い授業が可能となる。また、研究授業、研究会については若手教員の育成という意味でも重要な取り組みと考えている。できるだけ負担のないように運営を工夫しながら来年度も実施していく。	
							19	シラバスを作成し教室に掲示し、各教科の目標や評価基準を提示する。また、生徒の興味・関心に応じた選択科目の履修を促す。	3.1	3.2	家庭学習の習慣化、基礎学力の向上を目指し、来年度も学力向上の取り組みを継続する予定。	
							20	総合的な探究の時間に関する目標設定や指導計画について検討する。	2.9	3.1	課題を発見し、解決する能力を段階的に1年「知る」、2年「探る」、3年「究める」と進めていく。	
							21	校務支援システムを運用し、出欠、成績管理、指導要録、調査書の作成を一括して行う環境を整える。	3.0	3.6	成績処理、出欠管理についてのデータなど、生徒情報の共有において校務支援システムのさらなる活用、各部署との連携を進めていきたい。	
							22	ICTを活用した授業に向けた取り組みの実施	教職員のICT活用能力の向上を図る。	3.4	2.8	令和4年度入学生から始まるBYOD事業に伴った授業の準備と充実に向けて、研究授業及び職員研修を実施する。また、校務での情報活用、教育の情報化に対応した教職員のさらなるICT活用を目指す。
		23	本校の広報	インターネットを活用して、本校のPRを図る。	2.9	2.9	新しい学校HPの内容を充実すると共に、学校行事の実施やトピックスがあれば、その都度内容の更新を実施する。					
学年経営	夢に挑む	1学年(46回生)		評価の観点	規範意識と自主性の育成および基本的な生活習慣の確立	規則正しい生活を基盤として、さまざまな場面で自主的に行動できる生徒を育てる。	24	規則正しい生活リズムで毎日を過ごし、さまざまな場面での規則やルールを踏まえて自分ごととすべき行動を意識させる。事の善悪や、すべき事、してはいけない事を自分自身で考え、自らすすんで行動できるよう指導する。	3.2	3.3	8:25着席を促し、朝の読書や遅刻指導を通して、けじめある態度で生活できるようにする。また、服装・頭髪指導を粘り強く行い、ルールを守らせることで、高校生としての自覚と責任を持たせるように継続的に指導していく。	
					基礎学力の向上と進路実現に向けて	具体的な進路目標を持ち、その実現に向けて学習習慣と学力を見につけ、最大限の努力をする生徒を育てる。	25	毎日の授業を大切に、小テストや課題に取り組むことで家庭学習を習慣化させ、基礎学力を定着させる。継続的に学習状況の振り返りを実施し、客観的に自己評価させることで、具体的な進路目標に向けての取り組みを考え、実践させるように促す。	3.1	3.4	毎日の授業に集中して取り組み、課題に取り組ませるなど、普段の学習を大切にさせる。さらに、進路講演会やガイダンスを通して、自分に適した進路目標を設定させる。定期的にポートフォリオで振り返りさせ、目標達成のために今何が必要かを考え、行動させるように継続的に指導していく。	
					自尊感情の育成ならびに他者を尊重する姿勢の育成	自分自身を大切にするとともに、他者の立場に立つて物事を考え、思いやりのある行動ができる生徒を育てる。	26	自分と他者との関係のなかで、自分の言動が周囲に与える影響を意識させる。また、お互いにとって良好なコミュニケーションをとり、互いに尊重しあい、向上できる存在を目指す。	3.2	3.3	学校行事や学年行事、部活動だけでなく、普段の学校生活の中で自分の立場や役割を考え行動させる。また、同級生の努力している姿を認め、高めあえる環境作りを継続的に努めていく。	
	笑顔・夢	2学年(45回生)			評価の観点	基礎学力の向上・基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を確立させ、規律ある生活を自ら送るようにさせ、学校生活のリズムに慣れるとともに授業に集中して取り組ませる。	27	教わるという受け身姿勢からの脱却および、学ぶ姿勢を見せるための環境作りを行う。生徒同士の教え合い、学び合いを大切に人間関係の構築を目指す。	3.2	3.3	模試だけでなく校内学習成績の推移も見える化することで、日常的な学習意欲の向上に努めているが、それをさらに推し進める。日々の授業を大切にすることの重要性をあらゆる方面から説いていく。
						進路目標の発見と実現に向けて	自らの可能性を信じ、将来への目標を持ち、それに向かって努力する姿勢を育む。	28	知識の充足だけでなく、たくさんの経験を元にしたライフプランの構築を行う。積極的な姿勢による失敗体験を承認し、次に活かす教育を行う。日々の楽しい学校生活の演出により、生徒自身の活動能力を最大限に引き出す。	3.3	3.4	昨年度はコロナ禍で充分とはいえなかった進路研究も、大学訪問や分野別進路ガイダンス、進路説明会を複数回行うことで、意識付けの遅れをかなり取り戻すことができたと考えられる。
						心豊かな人間性の育成	心豊かな人間性の育成し、自らと他者を尊重しあう態度を養う。	29	教職員・生徒・保護者の三者間における関係作りの構築に積極的に学年通信を活用する。日々の学校生活を効果的に保護者に伝えることで、教師と保護者が協調して生徒の育成を行う。生徒の自己肯定感を伸ばす活動を積極的に行う。	3.2	3.6	学校生活を笑顔で楽しむという入学当初の目標は達成できていると考える。ただ、楽しいだけで終わっている生徒も見られるので、そこから人生の目的意識を持って行動することの重要性を、進路実現と兼ね併せて考えていくこととする。45回生の強みである学年通信のさらなる効果に期待するところである。
	光り輝く	3学年(44回生)			評価の観点	基礎学力の向上・総合的な学力の伸長	基礎学力の向上を目指し学校生活と家庭学習の中で総合的な生きる力の確立を目指す。	30	十分な準備のもとに授業に臨み、授業において理解することに全力を注ぎ、かつ家庭学習の時間も確保するなかで知識として多くのものを身に付け自分の進路目標を照らし合わせ、さらに深く学ぶ姿勢を育む。	3.2	3.2	欠席に関しては少ない傾向が続いており、学習活動に関してはおおむね良好であったように感じているが、一部コロナ禍に関わるや不規則な学校生活で生活リズムを乱し最後まで改善することなく過ごした者も少なからずいるようである。常々、注意を促してはいたが一度染みついた悪習はなかなか改善しなかった。
						進路目標の実現に向けて	将来のあるべき姿に向けて目標を持ち、真摯に努力する姿勢を育む。	31	多くの情報を集め自らの適性を探り、将来の夢・目標を確定しその実現のために様々な活動を積極的に実践していくようにさせる。	3.2	3.4	前年度までに複数回行った進路別ガイダンスを基に、各自の進路目標もほぼ決定したようである。部活動引退からの切り替えもスムーズにできおり学習意欲や模試の結果にもそれが表れていた。平常の生活リズムを崩さず粘り強く粘り着いて学習等に取組むよう指導していく。
						基本的な生活習慣の確立・望ましい人間関係の構築・規範意識の醸成	前年に培った基本的な生活習慣、学習態度、校内・外でのルール、マナーに基づいた行動、友人関係をさらに深化させる。	32	コロナウイルスの影響により、新しい習慣として多くのものに変化があるが、それにうまく対応しながらも基本的な事柄を大切に日々の生活をおくり、共に協力・尊重しながら有意義な学校生活を送る。	3.0	3.1	意識が各自の進路実現に向いていることが多くなっているためか、人間関係のトラブルは激減している。しかしながら、進路実現できるまで粘り、多くの不安を抱えている学校生活となるので、面談等を通じ不安軽減に努めていく。